

令和7年度第3回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会 会議録

開催日時 令和8年2月3日(火) 14:00~16:00

開催場所 伊勢原市役所 2C会議室

出席者

委員 村井会長、清水副会長、中越委員、岡西委員、新實委員、杉本委員、
佐藤委員、館委員、山寄委員、高野委員、早乙女委員、長谷川委員、
綿貫委員、高木委員、鎮目委員

専門部会 柏木委員、小木委員、山田委員、長尾委員

事務局 障がい福祉課 職員2名

議題

- (1) 令和7年度各専門部会の取組について
- (2) 第8期障がい者計画・障がい者福祉計画及び第4期障がい児福祉計画策定に関する市民意識調査について
- (3) 日中サービス支援型共同生活援助の協議会等への評価等について
- (4) その他

経過

1 会長あいさつ

2 議題

- (1) 専門部会の取組について

○相談・地域支援部会

第6回は、福祉事業所見学ツアーとして、新規に開所した放課後等デイサービス2か所と神奈川工科大学を訪問した。

第7回は、就労支援部会と合同で、GSV研修を実施。「心身ともに安定し、自分の望む暮らしを実現できるようにする」をテーマに50歳代、統合失調症の方が利用できるインフォーマルな社会資源について検討した。また、重層的支援体制整備事業について、伊勢原市の進め方を含め概要について地域福祉推進課から説明した。その他、新規に開所した訪問看護ステーションからのあいさつや、相談支援に関する県等が実施する会議等の報告を行った。

第2回グループホーム連絡会は、GSV研修で、「本人が精神的な親離れをできていない事例」で母子分離について検討し、グループ協議により、グループホームの連携が進んできた。

第8回は、令和7年度の振り返りと令和8年度の取組について検討した。

(委員)

事業所ではない神奈川工科大学を見学を選んだ理由と参加者の感想をお聞かせいただきたい。

(相談・地域支援部会長)

選択理由は、地域福祉を捉え直したいということで、大学にある地域連携・貢献センターの取組についてお話を伺いたかったこと。感想としては、センターでは、地域の放課後等デイや小学校支援級のイベントの受け入れ先として協力していることが分かり、大学との連携も視野に入れても良いということを知ることができて良かったということや、小川教授による講義が良かったとの感想があり全体的に好評だった。

○権利擁護部会

第3回は、障がい者週間街頭キャンペーンを権利擁護部会及び当事者部会、関係機関等と合同で駅北口・南口と市役所前の3か所で、作業所作成による啓発物品を同封した合理的配慮について記載のあるパンフレットを配布した。

第4回は、緑友会主催、権利擁護部会及び伊勢原市高齢者及び障害者虐待防止ネットワークの共催による研修会を「障がいの理解と合理的配慮」をテーマに行った。

講師には脳性麻痺があり、当事者目線では生活の質を向上させる視点での支援が不十分だと感じることで、当事者が自分らしい生活を送れるような世の中になってほしいという内容。

印象的だったことは、失敗を経験する大切さで、バリアフリーが進んでいる一方で人に声をかける機会が減っているということだった。

第5回は、障がい者及び高齢者の虐待相談対応件数についての報告、及び令和7年度の振り返りと令和8年度の取組について意見交換を行った。

(委員)

権利については、以前に比べると障がい者自身が求めることが減少していると思う。それは、障害者対策が進んできたということと、当事者がもっと学ばないといけないことがあることだと思う。何が我々の権利を侵害しているのかを学ばないといけないし、知っていただかないといけないと思う。

○こども支援部会

第4回は、GSV研修で、「2歳児の保護者の障がい受容期における支援について」検討を行った。感情が不安定になったときの対応方法、障がい程度に応じた支援方法、意思疎通が難しい方へのサポート方法など発表された。2・3歳児から18歳までを

こども支援部会を構成する事業所は支援しているが、その後の青年期の成長や生活の安定につながるようにするためにはどうしたら良いかという意見交換をした。

(委員長)

障がい児への支援はこども家庭相談課に移管されましたが、新たな支援などありましたらお願いします。

(こども家庭度相談課長)

障がいのお子さんへの支援としては、早期療養は母子保健の担当と連携を強化し、こどもの特性に合わせての療育や親御さんへの支援を強化して、産前産後を含めて18歳までのお子さんの支援をしている。今後は、就労支援へも繋がるよう勉強をさせていただき、就労支援部会にも当課の職員を参加させていただき、顔の見える関係性を築いていけたらと思う。

○災害時支援部会

第3回は、当事者部会と合同で実施、1月の市総合防災訓練の要配慮者対応訓練の内容について確認した。また、災害時個別避難計画の進捗状況について説明があった。

第4回は、市総合防災訓練の要配慮者対応訓練を行った。

第5回は、2月に1年の振り返りを行う予定である。

(委員長) 災害時個別避難計画の進捗状況について説明をお願いします。

(障がい福祉課長)

災害時要援護者登録制度があり、そこに登録している重度の障がい者や高齢者等が1000人ほどいられる。そのうち、土砂災害警戒区域と浸水想定区域にお住まいの160人へ災害時個別避難計画作成の同意書を送付した。障がい者は20名が該当し、現時点で同意が得られた方は8名、不同意の方が6名いられた。不同意の主な理由は、家族と同居しているので避難可能であるとのことだった。

同意が得られた方へは、相談支援員に本人等と一緒に個別避難計画を作成するよう依頼して、計画の作成を順次進めている。

○就労支援部会

第3回就労支援部会は、雇用促進セミナーを行った。就労支援部会、障がい者就業・生活支援センターサンシティが主催で、平塚市障がい者自立支援協議会就労支援部会が共催、伊勢原市雇用促進協議会が後援となっており、株式会社シーユーシー・ホスピスの人事の方からと株式会社アマダプランテックの特例事業部長からそれぞれ、

障がい者雇用の状況や工夫などについて講演いただいた。

第4回は、相談支援部会と合同で研修会を行った。

第6回就労支援部会WGは、就労選択支援の指定申請の状況について情報共有し、県の指定基準の20㎡の専用室の確保が課題であるとされた。また、伊勢原支援学校の生徒に関わる就労選択支援の実施体制について、厚木市には就労選択支援の事業所があるが、伊勢原市は当面、就労移行支援で対応する。学校には伊勢原市と厚木市在住の生徒がおり、保護者の混乱を招かないか危惧しているがどうか。

第5回は、株式会社アマダプランテックへ企業見学を行った。

第6回は、神奈川障がい者職業センターの障がい者職業カウンセラーを講師に招いて「就労支援におけるアセスメントについて」をテーマに講義及びグループワークを行った。

今年度からワーキンググループを立ちあげて検討を始めたが、就労選択支援を開始したいと考えているので、関係者と協議ができて良かった。

(委員長) 障がい者の雇用に関して雇用率が段階的に引き上げられる方針となっておりますが、障がい者雇用の近年の動向等お感じになることがあれば、お願いします。

(委員)

法定雇用率は今年からまた上がる状況ですので、市内の企業は積極的に動いている。併せて障がい者の指導員の募集をかけているが、採用が難しい状況がある。障がい者は学校から紹介をされるが、指導員はハローワーク経由となり、対象者が少なく、悩ましい。

(委員)

能力開発センターでは、当事者やその保護者向けの説明会を充実していきたいと検討している。

(委員長) 支援学校側の御意見があればお願いいたします。

(委員)

就労支援部会の方には、本校を見学していただき、情報共有させていただいています。厚木市のお子さんは、就労選択支援センターの方と調整させていただいて、伊勢原市在住の生徒さんは、従来どおりB型のアセスということで、並行して進んでいます。来年度も4月から同様の流れで予定しており、進路担当と情報共有しながらすすめてまいりたい。学校では、進路指導を段階的にしており、現場実習が始まる高校2年生の段階や、それに向けた進路面談の日程などスケジュール調整をしていただいて、来校いただきアセスメントをするなど、可能な限りの要望をさせていただきながら調整をしている状況です、引き続きよろしくお願ひしたい。

(委員)

本校は、ほとんどの生徒さんが平塚市在住ですので、平塚市の事業所と調整をいただいています。ただ、教員の方も何がどうなるのかイメージを持っていないところもありますので、障がい福祉課の方に来ていただいてお話をさせていただくとか、3年生や2年生の保護者向けにお話をさせていただけたらと考えています。

○精神障がい者支援部会

第4回ピアのつどいは、初めての試みで夕方開催にした。2つのテーマの語り合い。

第3回家族サロンは、4家族が参加し、家族の高齢化に伴う心配ごとについて話し合った。

第5回ピアのつどいは、2つのテーマの語り合い。第4回・第5回共に参加者が少なくなってきた。

第3回精神障がい者部会は、ピアサポーターの近況について、令和7年度の振り返り、令和8年度の計画について議題とした。伊勢原市在住のピアサポーターは4名いて、退院促進に向けた病院訪問が主軸だが、地域特性にあわせた活動をさせたいというお話があり、会議への出席や自立支援協議会とのコラボなどピアとしての活動を一緒に模索してほしいとの話があった。8年度も今年度同様に進めていく。来年度からは、部会長の他に副部会長を立てる形で対応したい。

○委員長 ピアサポーターの活動について課題や感想等あれば

(精神障がい者部会長)

精神科の入院施設のある病院との距離感があること、支援者側からの連携の働きかけ、ピアサポーターとの関係性の構築が課題ではないかと思う。

○当事者部会

第3回当事者部会は、市内中学校の福祉体験授業を行った。1時限目から3時限目までにかけて、視覚障害と聴覚障害、知的障害と精神障害、車いす体験をクラスごとに行い、4時限目は2年生全員を対象に様々な障害についての理解を深め、障がい者の方へどのように支援できるのかということについて市職員から説明しました。

第4回当事者部会は、総合防災訓練で行う要配慮者対応訓練について、役割などの確認をいたしました。

第5回当事者部会は、令和7年度の振り返りを行った。肯定的な意見が多く、8年度も7年度同様に進めていく。また、山火事の影響で延期した研修会は、2月10日に実施する予定。

(委員)

個別避難計画の作成について、計画を作成する対象は全員ではなく、決められた方ということか。

(障がい福祉課長)

全員分をいっぺんに作成することはできないので、7年度は危険区域(ハザードエリア)にお住まいの方のうち計画作成に同意された方の計画を作成します。今後3年くらいで、要援護者登録をされた方で、個別避難計画の作成を同意した方全員の計画を作成したい。計画の更新は3年を目処に、計画内容に変更があれば随時対応する予定。

(当事者部会長)

不同意者も親の高齢化により必要になる時期がくると思う。また、今回の国の改定で、直接、福祉避難所に行くことを国が認めたとあるので、市ではどのようになるのかが分かれば、皆さんに周知していただきたいと思う。

(委員)

知的障がいのある方は、避難所で生活することを諦めているのではないか。やはり当事者の方から声を上げて、皆さんにも考えていただき、協力しながら支援していくことが大事。神奈川県の手をつなぐ育成会が防災安心ブックを作成し、皆さんにお配りしている。必要な支援の記入をしたら、防災リュックに入れてほしい。もし、親がいなければ、支援者の方に見ていただき、支援いただければと思う。

(委員長)

医療的ケア等支援部会は、部会長欠席のため、資料を確認いただきたい。

(2) 第8期障がい者計画・障がい者福祉計画及び第4期障がい児福祉計画策定に関する市民意識調査について

(事務局)

市民意識調査は、障がい当事者向けと一般市民向けと2種類の意識調査を令和7年11月25日から12月17日まで行った。回収率は当事者調査が63.7%、一般市民調査が52.4%。現時点では、単純集計のデータしかない状況だが、アンケート結果を踏まえて計画を作成したいと考えている。

(委員長) 今回、回収率が良かったようですが、その要因について。

(障がい福祉課長)

お礼状兼督促状を送付したことや、アンケートやお礼状兼督促状を週末に読んでいただけるよう金曜に届くように発送日を調整したこと等によるかと思う。また、自由意見欄には、アンケートに回答することで、障がい福祉施策に役立てればとの記載もあり、障がい福祉への関心の高さが窺えた。

(3) 日中サービス支援型共同生活援助の協議会等への評価等について

(障がい福祉課長)

グループホームの評価会議に時間がかかり、協議会の審議が長時間になるなど協議会の運営に影響があったため、評価会議のありかたについて、企画運営会議で検討した。企画運営会議は、協議会運営に関すること等を協議する場で年に3回実施している。そこで、評価会議を行い、評価報告書の案を作成し、協議会に報告する方法とし、事業所は企画運営会議のみの参加とする。そのような方法で、令和8年度から実施していきたいと意見がまとまったので、協議会の御意見等をいただきたい。

(委員長) 今の説明に対して、御意見やご提案があれば、お願いします。

(委員)

様々な立場の方がいられて、厳しい意見等が還元されていく今の形は、大きい場で検討する良さもあると思いますが、企画運営会議は、この場にいられる専門部会長からなる組織で、検討をしていかれるのであれば、外部メンバーではないので、良いのではないかと思う。

(委員)

企画運営会議で検討をして、話を詰めてほしいと思います。市には施設入所施設がうちの事業所しかないので、日中サービス支援型共同生活援助の施設は絶対に必要な施設ですし、増やしていただきたい。その事業所の説明をききながら、自分の施設の振り返りもできていた。グループホームの設置を狭めない形で、やっていただきたい。

(委員)

日中支援型の共同生活援助は必要な施設で、良い施設が多く開所することを期待している。企画運営会議が実施する評価会議に提出する資料を協議会の委員にも送付していただくことは可能か。

(事務局)

可能です。評価会議に提出された資料を事前に協議会の委員の皆様に送付し、企画運営会議までに、御意見をいただき、その内容を評価会議でも確認するような方法で、よろしいでしょうか。

(委員長) それでは、他に御意見がないようなので、今の事務局からの説明の方法で、進めて参りたいと思います。それでは議題3のその他につきまして、情報共有などございましたらお願いいたします。

3 その他

(委員)

湘南西部圏域の自立支援協議会の事務局をしております。2月18日に秦野市で、湘南西部圏域の自立支援協議会を開催する。議題としましては、社会保障審議会でも検討している、望まないセルフプランの削減とグループホームの支援の質の向上になる。

伊勢原市の取組としては、計画相談支援の推進を早い時期から実施してきたことから、セルフプラン率が低く抑えられていようであり、各部会において、当事者の方が参加ではなく参画している。また、早い時期に当事者部会が組織されていることも大きいのだと感じている。

相談支援事例から取り上げられた地域課題として、レスパイトの場としての地域資源が不足しているといったことを課題提起していただきました。このようなことは、圏域だけの課題ではないと思うので、広く発信をしていきたい。

(委員長) 最後に副委員長からひとことお願いします。

(副部会長)

先日、幼児期から学齢期までのお子さんの不登校の現状について情報交換をしたらどうかという話をした。学齢期のお子さんはどうしても学校にお任せしてしまっていて、不登校のまま卒業してしまうと、福祉サービスに繋がらなくなってしまい、親御さんが80歳代になってケアマネが支援に入ってそこで、初めて50代のお子さんが家にずっといるということがわかるということがある。伊勢原市の場合、1学年あたり20人弱ぐらいが数としては上がっていて、積み上げていくと結構な人数の方がいられるのではないのかと、その中に発達障がいや軽度の知的障がいの方がいるのではないのかとと思っている。

幼児期から保育園や幼稚園にも関わらず、そのまま就学期も不登校のまま中3になっていて、そこで、福祉につなげたいと相談が入るが、福祉のサービスにつなげるには、学齢期からの関わりがあった方が良いので、学校と連携をとれたら何らかの福祉サービスにつなげられるのではないかと考えている。

私は、現場支援から会議に出させていただいて、皆さんに多くの意見をいただき、30年前に比べたら良くなってきていると思うが、課題もまだあり、一歩ずつでも前に進んでいきたいと思う。

(障がい福祉課長) 以上をもちまして、第3回協議会を閉会といたします、委員の任期は、6月までとなりますが、今日が最後となります。2年間御協力ありがとうございました。来年度以降も、引き続き、改めまして、各機関様へ、御協力のお願いをさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上